

組合 NEWS

Faculty and Staff Union of Kanazawa University
金沢大学教職員組合執行委員会
金沢市角間町
Tel.076-262-6009 (FAX同じ) / 角間内線2105
E-mail kanazawa@kuunion.org
ホームページ http://www.kuunion.org/

2015年2月5日

通巻1224号

この号の内容

- 教育改革について

教育改革を考える(1) 国際基幹教育院について



スーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業の採択を受けて、またYAMAZAKIプランに基づき、本学では組織の改編を含む教育改革が進行中です。しかし、多くの教職員は大学の将来像を思い描くことができず、漠然とした不安を抱えているのが実情ではないでしょうか。そこで学内議論の深化を期待し、教育改革問題をシリーズで取り上げることにしました。今回は国際基幹教育院についてです。

国際基幹教育院は教養部の復活？

本学の教育改革は、金沢大学〈グローバル〉スタンダード(KUGS)に基づくカリキュラム改革を行い、金沢大学ブランドの人材育成を目指して実施されようとしています。このKUGSには「自己の立ち位置を知る」等、5つの目標が設定されています(KUGSも問題ありなのですが、ここでは触れないことにします)。そして学生が5つの目標を達成するために学習するのがGS科目と呼ばれる科目群です。

もともとKUGSに基づく人材育成は、4年ないし6年の学士課程の中で実現されるものですから、GS科目も学士課程全体を通じて学習すべきであると考えられます。検討当初は、そのような方向での議論もあったようです。しかし、現在「GS科目」と言えば、もっぱら共通教育科目を指すというのが全学的理解であると見受けられます。実際、2月6日申請締切りで進行中の国際基幹教育院所属教員の募集についても、「共

通教育において、KUGSに示す能力の育成のための科目をGS科目として設定することとし、このGS科目実施の中心となる組織として、平成28年度に国際基幹教育院を設置する」と説明されています。つまり、国際基幹教育院は共通教育を企画・実施する組織にほかなりません。

このように見てくると、教育担当理事がいかにか美辞麗句を並べて追加説明しても、みな国際基幹教育院はかつての教養部に類する組織だと判断します。相違は組織の長が教育担当理事であることくらいでしょうか。もしそうであるならば、大学は20年前に教養部を廃止したことの是非を総括する必要がありますでしょう。無責任な文科省の意向に沿って組織をいじっても、同じ轍を踏むこと、想像に難くありません。私たちは、法人がどのように教養部の廃止を評価した上で国際基幹教育院の設置を決定したのか、きちんと説明することを求めます。

教育院はできたけど・・・ 共通教育も専門教育もガタガタに？

さて、国際基幹教育院への所属については、学内公募という形で進められています。これは一見、教員の意向を尊重する方法のように見えます。しかし、募集の案内を受け取った教員は戸惑いを禁じ得なかったのではないのでしょうか。なぜなら、国際基幹教育院への移行は専門教育に多大な影響を及ぼし、その影響を考えれば、教員は自分の思いだけで決断できないからです。

そもそも今年は「ミッションの再定義を踏まえた学類・コースの改革について、議論の正念場を迎えます」と、学長自ら年頭で指摘された年です。つまり、学類・コースの組織改革が目前に迫っているのです。そうした状況の中で、個々の教員が判断を下すことは、極めて困難であると言わざるを得ません。要するに国際基幹教育院の設置は、本来、学類・コースの改革と並行して議論すべき問題なのです。そしてそれこそが、4年ないし6年の学士課程を通じてグローバル人材を育成するというKUGSの目標を達成できる唯一の方法となり得るものです。

学長は従来の教養教育改革について大きな不満をお持ちらしく、たびたび現状に対する批判を展開されますが、なぜ改革が成果を上げられなかったのか、その原因についてはほとんど触れておられません。あるいは上層部での発言はあるのかもしれませんが、一般の教職員には伝えられていません。

むろん原因は一つでないでしょう。ただ、これまでも指摘されてきたように、教養教育と専門教育との間に関連性が乏しいこと、それが最大の原因であると思われます。ですから、教養教育の改革は専門教育の改革とセットで実施しないかぎり、成功は望めません。今回のKUGSに基づく改革は、そうしたセット改革のチャンスです。にもかかわらず、なぜ国際基幹教育院だけ先行して決定しようとなさるのか、まったく理解に苦しみます。今からでも間に合います。真に教養改革の成功をめざすのであれば、たとえ国際基幹教育院の設置が遅れたとしても、専門教育の改革と並行して再検討すべきであると考えます。

なぜ設置を急ぐのか？

そもそもSGUの構想調書によると、共通教育のカリキュラム改革は2017年度から始まることになっています。しかし、現在の検討状況は、2016年度から新カリキュラムによる授業開始という方向で進んでいます。なぜ1年前倒しして実施しなければならないのか、説明は一切ありませ

ん。あるいはYAMAZAKIプランに基づくのかもしれませんが、やはり学長は急ぐ理由を説明すべきです。

組合ニュース前号で指摘したように、第3期中期目標・中期計画期間における運営費交付金の配分を通じ、文科省は学



長のリーダーシップによる組織改革を支援する方向性を打ち出しています。機を見るに敏な学長は、第2期の最終年度に「組織改革に着手」という実績を示すことが得策であるとお考えなのかもしれません。しかし、事は大学の将来を左右する問題です。慎重な議論を求めます。

およそ国際基幹教育院の規模は、GS科目関連で30名以上の専任と60名以上の準専任、

それに留学生センター（8名）、外国語教育研究センター（20名）、大学教育開発・支援センター（5名）の教員が加わります。とても大きな組織です。しかも、これまでミッションの異なる組織に所属して業務を遂行してきた教員の集合体になるわけですから、所属教員には協調性という資質も問われます。やはりもっと時間をかけて設置を図ることが必要であると判断されます。

教職員の意見に耳を傾けよ！

教育改革については、誰もが関心を持ち、意見を持っています。法人が真摯にその意見に耳を傾けないかぎり、どんな改革も成功しません。以下、組合事務所に投じられ

た意見（3カ月ほど前の投書です）を掲載します。組合員か否かは不明です。しかし、これが教職員のごく一般的な考えであることを、法人は正しく認識すべきでしょう。

投書

執行部に意見しても黙殺されると思い、他の方法も思いつかなかったので教職員組合に投書することにしました。

共通教育を中心とした教育改革を強引かつ拙速に進めないでください。

現在、執行部から断片的に出てくる資料を見る限り、金大生としての基盤形成を目的として新たに選択必修となる「GS科目」という約30の科目は非常に大雑把な内容しか決まっていません。また、英語学習強化の中身は外部試験の点数向上策のようです。（教養教育の研究会では、学長から「できない学生は卒業させない」「高レベル学生向け特設プログラムを犠牲にしてもやる」という趣旨の発言があったと聞いています。）「国際基幹教育院」という組織の構成や具体的な人員配置もこれから形作られるようです。にもかかわらず執行部は、平成28年度から新しいカリキュラムをスタートさせるといっています。これは暴走以外の何物でもないと思います。

教育の中身を、学生の質や社会の状況も考慮しながら変えていくことに異議はありません。ただ、その前提として、

- ①本学の既存の教育の課題を明らかにする。
- ②ある程度具体的な改革案を策定する。
- ③期待される効果とリスクについて比較衡量し、修正する。
- ④具体的かつ実効性のあるスケジュールを組み、実行する。

といったプロセスを踏むことは必要です。特に①及び③の段階では、構成員である教職員との十分な意見交換に基づいた一定程度の認識の共有や合意の形成が不可欠です。

今の改革プロセスは①が圧倒的に欠けています。加えて②の案も前述のとおり具体性に欠けています。したがって③の評価も（意見照会があったものの）実は十分にできていません。この状態で④に進めば、よほどの幸運が無い限り良い結果は期待できません。さらに移行期の業務負荷増大も加われば、教員は疲弊し、カリキュラムは混乱し、結局は改革の目的であるはずの人材育成にも悪影響が生じるのではないかと深く憂慮します。

ちなみに、本学の「スーパーグローバル大学」の申請書類でも、新カリキュラムの開始は平成29年度になっています。導入を急ぐ理由はどこにあるのか、この点からも理解できません。

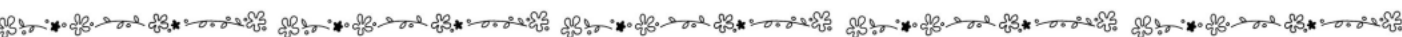
執行部には、まず教育人として冷静かつ慎重な判断をお願いしたいです。

ご意見
募集中

教育改革問題に限らず、みなさまからのご意見をお待ちしています。
ご意見ご感想をお寄せください。

連絡先 E-Mail : kanazawa@ku-union.org

* 学内便で組合宛にお送りくださっても結構です



皆さんの加入によって組合の発言力が高まります。ぜひ組合に加入してください。

お申し込み

学内便等にて組合事務所
までお送りください。

又はメール

kanazawa@ku-union.org

ご記入いただいた事項は「個人情報保護に関する法律」を遵守し、組合活動情報のご提供、組合費徴収などの事務のために適切な取り扱いをいたします。

連絡先

金沢大学教職員組合

金沢市角間町

TEL076-262-6009 (FAX同じ)

内線(角間) 2105

<http://www.ku-union.org/>

金沢大学教職員組合 加入申込書

申込日 年 月 日

ふりがな

氏名 (男・女) 生年月日 年 月 日

所属部局 職種 職名

電話番号

E-mail (職場・個人用)

組合費 チェックオフ(賃金控除)【通常はこちら】 8桁の職員番号

チェックオフ以外の方法を希望 ()

住所

差し支え無ければ記入ください。職場に組合の発行物をお届けしにくい場合にはご自宅への送付も可能です。